



大会宣言

JR東労組 千葉営業分会は、11月26日、千葉地本において「第29回定期大会」を開催し、これまでの取組みを振り返るとともに、向こう1年間の運動方針を全員で確認した。

私たちは、新型コロナウイルスが猛威を振るい続ける中、感染の恐れとたたかい、近頃多発している凶悪犯罪に身の危険を感じながらも、日々安全・安定輸送や安心を提供し、増収に取組み、収益を確保してきた。しかし、年末手当団体交渉前にも関わらず、会社は記者会見にて賞与削減に言及した。唐突であり、従業員の理解を求める姿勢は微塵もない。年末手当団体交渉においては、懸命に労働し、苦しい生活に喘ぐ私たちの声を「受け止める」としながらも、日々業務に汗を流し、生産性向上に努め、第2四半期決算を増収増益に押し上げ赤字額を減らした私たちの苦労には報いようとしなかった。最終的には「妥結しなければ、年末手当は支給出来なくなる」と言い放った！会社が決めたことに従わせるという傲慢な経営姿勢がこのたび明らかとなった。

ひたむきに赤字削減に努力している私たち自体が、経営陣にとって「コスト」であると考えているからこそ、これまでのボーナスも定期昇給も真っ先にカットしてきた。車両や線路など固定費が削りにくいから、人件費に手をつけるのだ。本当は私たちの首を切りたがっている。共同通信によると、通期の赤字見通しを受け、22年3月期の経費削減目標が700億円から倍以上の1800億円に引き上げられた。賞与削減だけでは到底達成できない額だ。このままでは春闘においても賃上げや定期昇給をカットしてくる事は明々白々である！看過し続ければ、最終的に私たちを待ち受けているのは「解雇」だ。

日本経済新聞によると、会社は22年3月期中に鉄道運輸収入がコロナ前の約85%、23年3月期中に約90%まで回復すると予想しているとのことだが、その予想は正しいのだろうか？今回の決算でも『緊急事態宣言が断続的に発令されたことにより、鉄道を中心にお客さまのご利用が低迷した結果、単体・連結ともに収入の回復は対前年で小幅にとどまり、残念ながら全ての利益が赤字の決算となりました。』と述べているが、予測し得た事態とも言える。楽観的な予測で対策を怠り、赤字予想となってしまったのは経営陣の責任ではないだろうか。コストカットとして従業員にばかり押し付け、経営構造を適正化する時期は見通せず、具体的なシナリオも描けていない経営陣に危機感を覚える。**黒字化に向けて、できる限りの協力は惜しまないが、経営陣の怠慢に付き合うつもりは毛頭無い。私たちの雇用と生活を守るために相応の要求をして行かねばならない！**

10月28日付の「社員の皆さんへ」を見ると『鉄道事業の高い固定費率を見直すコスト構造改革を進める』とある。定期の運輸収入が、特に首都圏でいまだに減少している状態では、駅業務の効率化やワンマン運転・自動運転の推進、設備のスリム化等、**鉄道の構造改革や働き方改革は避けて通ることはできないだろう。しかし過度で危険な改革は許さない。**今こそ分会運動を盛り上げ、**声をあげてゆこう！**JR東労組は、組合員はもとより、未加入者で声を出せない方の意見も受け止める組織である。要求実現には、情勢を踏まえた根拠に加え、組織力も重要であることから、組織強化・拡大に力を入れてゆく。

要求を行い会社と交渉をし、労働条件を改善することは労働組合にしかできないということを今一度強調する。

このような厳しい状況下だからこそ、千葉営業分会は人同士・職場同士の繋がりを大切に、強固なものにしていく。仲間を思いやり、支え合い、言いたいことが言い合える分会でありつづけよう。そして、健全な労使関係のもと施策へ真摯に向き合い、安全・雇用・生活を守るため活発に議論を重ねるとともに、JR東労組の生きのこりを懸け一人ひとりが組織の強化・拡大に向け奮闘してゆこう！

以上、宣言する。

2021年11月26日
東日本旅客鉄道労働組合
千葉地方本部千葉支部
千葉営業分会
第29回定期大会